

数量限定のウニ染め生地のフライトタグキーホルダー「UNivers AIR」、 9月10日(木)より機内販売を開始

～奥尻島のウニ殻をアップサイクルしてフライトタグに～



北海道エアシステム(以下、「HAC」)は、2026年9月10日(木)より、ウニ染め生地のオリジナルフライトタグキーホルダー「UNivers AIR」を数量限定で機内販売します。

本商品は、9つのHAC就航地を象徴する自然や食、歴史、文化のモチーフを繋ぎ合わせて1枚の風景として表現しています。中央にはHACの機材ATRを配置し、それぞれの地を空で結ぶ、温かみのある商品となりました。前回の「白樺染めフライトタグキーホルダー」(*)を手がけた、四元 麻理氏がデザインしました。

素材は、奥尻島のウニの殻から生まれた染料を使用しており、環境に優しい染め物です。このウニ殻を利用した染料には、「奥尻島の課題を解決したい」という若い生産者の想いが詰まっています。

HACは、こうしたオリジナルフライトタグキーホルダーの販売を通して、地域資源を循環させ脱炭素化に資する取り組みを支援してまいります。

- 商品名:「UNivers AIR(ユニバース エア)」
- 販売期間:2026年9月10日(木)～ ※売り切れ次第終了
- 販売数:数量限定(お一人様3個まで購入可)
- 販売場所:HAC運航路線全便
- 販売価格:2,000円(税込)※現金のみ

■デザインのポイント

1. 機影デザイン側

HACの就航地である9地域(札幌丘珠、釧路、函館、女満別、三沢、中標津、秋田、利尻、奥尻)それぞれを象徴するモチーフを、四季の流れで配置しています。北の自然が織りなす四季の移ろいと、空の旅への期待感を表現しました。

「次はあの街へ行ってみたい」「またあの景色に会いに行こう」そんな旅の記憶や新たな旅への期待が自然と広がるように想いを込めました。

2. ウニ染め生地側

奥尻島は、キタムラサキウニの名産地として有名ですが、そのウニの殻から抽出される染料を使って、絞り模様を入れました。一つ一つの異なる色合いで異なった表情を見せる、唯一無二のウニ染め生地に、原料となったキタムラサキウニの刺繍を施しています。

■海灯-Umiakari

代表取締役 板垣 秋佳里氏

代表取締役である板垣秋佳里さんは、宇都宮市から奥尻島へ「島留学生」として移住しました。高校2年の時に島内で利用されていないウニ殻の存在を知り、「地域の課題を島内で解決するビジネス」として、ウニ殻を活用した特産品を次々と開発しました。棘から抽出した色素で染めたトートバッグやハンカチ、残った殻を活用したランタンなど、その取り組みが評価され、「高校生ビジネスプラン・グランプリ」で全国ベスト100に選出されました。

高校卒業後は事業を本格的に立ち上げ、奥尻島との関わりを継続しています。

今春からは横浜市立大学へ進学し、国際ビジネスを学びながら、ウニ殻事業のさらなる発展を目指しています。



■株式会社M4210

住所:鹿児島県鹿児島市中山町5203-1

代表取締役・パタンナー 四元 麻理氏

鹿児島を拠点に活動するアパレル・雑貨メーカー。オリジナルグッズやアパレル商品の企画・デザイン・製造まで一貫して手がけています。

前回、白樺染めフライトタグキーホルダーでもデザイン協力いただき(*)、今回はHACが結ぶ9つの就航地のそれぞれの魅力を一枚の風景に納めて、思わず旅に出かけたくなるような、軽やかで心弾む世界観を表現しています。

(*)2025年11月6日付プレスリリース | [北海道の白樺をアップサイクル 数量限定の「白樺染めフライトタグキーホルダー」、機内販売を開始](#)



以上